

すまうらこうえん
須磨浦公園の自然

源平合戦(げんぺいがっせん)ゆかりの須磨浦(すまうら)には、ふるい歴史があります。平家物語によると、一ノ谷で平氏と源氏(げんじ)の戦いがあり、平敦盛(たいらのあつもり)が海に追いつめられ、うち死にしたと伝えられています。

須磨浦公園には桜(さくら)と松の林があり、花見シーズンには大ぜいの人でにぎわいます。海に向かって国道をトンネルでくぐると須磨海づり公園があります。山に向かうにはロープウェイうみひこ・やまひこが便利です。乗るとガタガタするカーレーター、ゆっくりとまわる回転展望台(かいてんてんぼうだい)があって昭和の空気が流れています。さらに鉢伏山(はちぶせやま)から観光リフトにゆられて須磨山上遊園にいけます。

須磨浦公園は関西を代表する56kmのロングトレイル「六甲縦走路(ろっこうじゅうそうろ)」のスタートで、ゴールの宝塚(たからづか)を目指して、ハイカーやトレイルランナーたちが集まります。

このマップは、つめたい北風にコナラの葉が落ちてから桜がさくまでの季節の自然観察ガイドマップです。虫たちが越冬(えっとう)にはいるこの季節でも、元気いっぱいなのは鳥たちです。広場ではハクセキレイがおしりをひよこひよこ振り、シロハラが落ち葉の音をたててエサさがします。静かな林にはいると、にぎやかなヒヨドリの声、コゲラが木をつつく音がします。木の梢(こずえ)にはモズがいます。かわいらしいエナガやジョウビタキ、メジロのむれもやってくるでしょう。おしりをたてたオジロビタキに会えるかもしれません。



ウバメガシの林
尾根(おね)には、ウバメガシがびっしりです。

コナラの林
コナラ、アベマキのほかカゴノキやカクレミノなどいろんな木が競争するように枝(えだ)のをばします。コゲラやウソ、ジョウビタキ、シジュウカラ、モズがいます。

クロマツの林
松と桜の明るい広場になっています。クロマツにハシブトガラスの巣があります。メジロ、ハクセキレイ、シロハラ、ツグミがよくいます。いつもドバトとトビがいます。木の幹(みき)でカメムシが越冬していることがあります。

アカマツの林
潮風(しおかぜ)があたる南斜面(みなみしゃめん)には、アカマツやウバメガシが生えています。大きな葉のうらでオオキンカメムシが越冬します。3月、コバノミツバツツジがピンクの花をさかせ、ヤブの中からウグイスの声がきこえます。



鳥が見えたら、静かにしよう。鳥の動きや声からも、見分けられるよ。色や形がわかれば、図かんで調べてみよう。

- ・ぼうし
- ・長そで、長ズボン
- ・運動ぐつ
- ・ハンカチ、タオル
- ・そうがん鏡
- ・図かん



服と持ちもの

鳥たちはとても早起きです。観察は朝からいくとよいでしょう。

駅前の松林からスタートして、セキレイがくる水路をチェックしましょう。クロマツにはメジロのむれ、ハシブトガラスやトビ、地面にはスズメ、シロハラ、ツグミがよくいます。山をあがった静かな林は、鳥たちの声がします。耳をすませば、コゲラが木をつつく音が聞こえるかもしれません。

近くの木に小鳥たちがきたら、観察のチャンスです。

須磨浦公園の鳥たち

●ミサゴ

トビよりもひとまわり小さいタカの仲間で、空から海に飛びこんで魚をとるハンターです。飛んでいるミサゴを見上げると、おなかや白くみえます。須磨浦公園には、秋から冬にあらわれることが多いようです。



●モズ

頭でっかちで、するどい口ばしをもち、カエルや虫などを食べます。トゲや枝(えだ)にエサをさしておく「はやにえ」という習性があります。見晴らしのよい木の枝(えだ)で「キチキチ」と鳴き、なわばりを宣言(せんげん)します。



●コゲラ

キツツキの仲間で、木にすむ虫をさがして、幹(みき)や枝(えだ)を歩きます。まわったり、さかだちしたり、自由自在(じゆうじざい)です。木をつくと「コロコロ」と小さな音がします。山のなかを歩いていると、意外によく会えます。



●ウソ

オスのむねはべに色をしていて、美しい鳥です。「フィー」「ヒー」と口笛のような声で鳴きます。数羽のむれでいることが多く、木の実を食べます。鉢伏山(はちぶせやま)でサクラのつぼみを、むさぼるように食べていました。



●エナガ

尾(お)が長く、ふっくらした体型のかわいらしい鳥です。高い枝(えだ)から枝へとつりながら、虫などを食べます。山にあがっていく遊歩道や鉢伏山(はちぶせやま)のコナラ林で見られます。



●ヒヨドリ

スズメよりひとまわり大きくて、はい色のまだらもよう、ほっぺたが赤茶色です。「ヒーヨッ」と大声で鳴き、むれがやってくると、もううるさいくらいです。おおきなむれをつくり、木から木へと飛ぶところが見られます。



●メジロ

緑色のからだで、目のまわりに白いリングがあります。虫や木の実を食べ、ツバキやサザンカの花のミツも大好きです。須磨浦公園のどこでもよく見られます。松林に20羽くらいのむれであらわれることもあります。



●シジュウカラ

むねに黒ネクタイもようがあります。オスは「ツーピーツーピー」とすき通った声で鳴きます。山の遊歩道で、エナガやコゲラといっしょにいるところを見ます。木の上や地面の上で、木の実や虫をさがします。



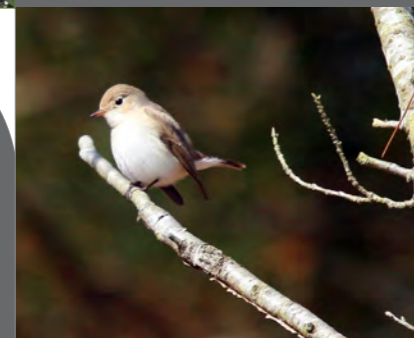
●ウバメガシ

冬でも固くてガサガサした葉をしげらせています。せが低くて、幹(みき)はクネクネとのびます。須磨浦公園の尾根(おね)やかわいたところに多い木です。よく見ると、葉の間に越冬(えっとう)している虫がいるかもしれません。



●オジロビタキ

見ることがまれな鳥ですが、春先の須磨浦公園にあらわれました。おしりをツンとあげる姿勢(しせい)をとり、つばさの先がすこしとびでて見えるかわいい鳥です。名前のとおり、尾(お)の両サイドが白くて目立ちます。



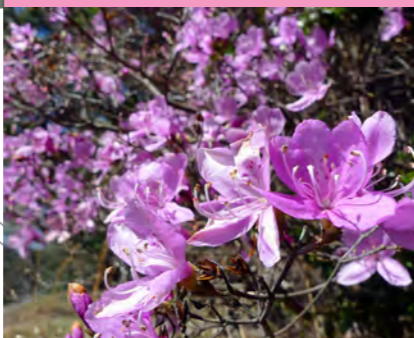
●ジョウビタキ

冬にシベリアから日本にくるわたり鳥です。オスのおなかは明るいオレンジ色をしています。つばさを広げると、羽根の白いもようが目立ちます。警戒心(けいかいしん)がうすく、観察しやすい鳥です。「ヒッヒッ」と短く鳴きます。



●コバノミツバツツジ

やせた土地でも育つことができるツツジで、幹(みき)は細く冬は葉を落とします。アカマツ林に多い木です。春が近づくと、日当たりがよいところの木は、もえるようにピンク色の花をつけ、よく目立ちます。



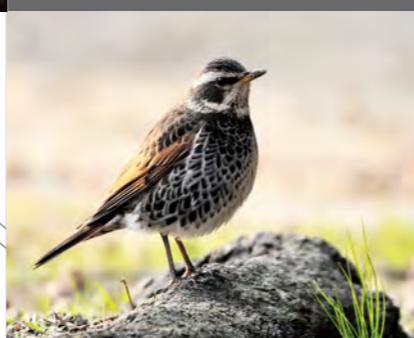
●ハクセキレイ

冬はせなががはい色で、ほっぺたが白いセキレイです。松林や水路のまわりを、つかずはなれず、つかいでいることが多いです。とまっているとき、尾(お)を上下にふるクセがあります。



●ツグミ

冬になるとやってくるスズメよりひとまわり大きな鳥です。広場や林でミミズや虫をさがします。とても姿勢のよい鳥で、とまっていたかと思うと「だるまさんがころんだ」のリズムで歩くところを見ます。



柿木、香西、小巻、松尾也寸志、水谷正弘、山田諸氏が撮影した写真を使用しています

越冬する虫たち

つめたい北風がふきはじめると、虫たちは姿(すがた)を消します。虫たちはどこにいくのでしょうか？木々が葉をおとし、雪がふりだす前に、ハラビロカマキリは卵(たまご)を産みます。ルリシジミは幼虫(ようちゅう)からさなぎになります。テントウムシやカメムシたちは、あたたかい木の隙間(すきま)や葉のうらに集まります。そうして虫たちは、寒い冬をしのぎます。



◎お問合せ
(公財)神戸市公園緑化協会
〒664-0163 神戸市須磨区緑台
電話 078-795-5656